アジサイ行灯祭り

龍谷院たより

発行所　龍谷院
茨城県東茨城郡
城里町下阿野沢1509
TEL 029-289-3108
FAX 029-289-3025
編集人　薗部　義光

正月

龍谷院住職　薗部　義光

初春のお喜びを申し上げます。

昨年を振り返りますと本当にいろいろな事件や事故があり、また、ゴルフ大会、環境整備草刈、アジサイ行灯祭り、施餓鬼会、開山忌など龍谷院の行事もたくさんありました。その節は総代さまをはじめ各世話人さまにお忙しいところ何かとご協力を賜りましたことを厚く御礼を申し上げます。

天候にはあまり恵まれませんでしたが無事に行事が開催できましたことを喜びとしています。

年を改めまして今年は羊の干支であります。毎年毎年繰り返しの日暮ですが少しずつ変化をしていることもあります。それは自分の年が増えていることでしょうか。何時までも若いときは続きません。少しずつ老いの坂道を登っているのです。

「門松や冥土の旅の一里塚、めでたくもあり、めでたくもなし」

一休さんの詩は有名です。この一年夢と希望を持って過ごしたいものです。

今年も新たな行事が予定をされております。

第一番は、龍谷院の開山秀峰宗岱大和尚の五百回忌の法要を、来る十月二十四日に予定をしています。

第二番は、弟子の薗部大貴が大学を卒業して春から大本山総持寺へ修行に行く予定です。修行は大変厳しいものです。本人がどれだけ頑張れるかですが親としては、ただただ無事を祈るだけです。

本山修行中には檀信徒の皆様と一緒に本山へ陣中見舞いなども考えています。また、今年は二祖我山禅師の六百五十回大遠忌が修行されていますので、あわせてご本山へ行きたいと思います。

檀信徒の皆様の協力が無ければ出来ません。お力添えを切にお願い申し上げます。

今年も皆様にとりまして良い年になりますようご祈念申し上げます。

新年のご挨拶

総代　加藤　盛一

新年あけましておめでとうございます。檀信徒の皆様には、輝かしい新春を迎えられましたことと、お喜び申し上げます。

日頃は、龍谷院の護持につきまして多大なご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は、気象の異変で豪雨により土砂災害、御嶽山の大噴火後、長野北部に地震が発生し多くの犠牲者が出たことは誠に残念で言葉になりません。ご冥福をお祈りし被災された方々にお見舞いを申し上げます。幸い当地方は災害が少なく仏天のご加護のもと、六月下旬に「花の寺第二回アジサイ行灯祭り」を開催いたしましたところ、天候不順にもかかわらず、大勢の参拝者にご来院を賜り感謝申し上げます。

九月十九日には、曹洞宗茨城県宗務所主催により檀信徒大会が土浦市民会館で開催され、当院より住職様、総代梅花講員の皆様が出席、会場には千名の檀信徒が集い、大本山総持寺二祖峨山韶碩（がさんしょうせき）禅師様の六百五十回大遠忌予修法要が厳粛に修行されました。禅師様は瑩山禅師によって能登の地に開創された大本山総持寺の二祖として、師の志を受け継ぎ半世紀にわたり、本山の護持運営に心魂を傾注され多くの弟子たちを育て輩出、この門下の方々が全国へ教えを広められ、大いに曹洞宗の玄風を昂揚され、今日の宗門の基を築かれたと言うお話を伺い感銘し、禅師様への「報恩謝」の念をいただきました。

法要後に引き続き、第三十三回梅花流茨城県大会が開催され、当院より梅花講員十名が参加し、七ヶ寺合同により日頃の活動ぶりが披露され、梅花流の仏教音楽にしばしの間やすらぎを体感させていただきました。

今年は、龍谷院を開創された秀峰存岱大和尚様の五百回大遠忌の年にあたりますので、檀信徒皆様とともに格調高い法要を願い。

おわりに、檀信徒御一同様のご健康とご繁栄をご祈念申し上げ挨拶といたします。

新春を迎えて

総代　川野辺　博

新年明けましておめでとうございます。

檀信徒の皆様におかれましては、健やかな新春をお迎えの事と心からお慶び申し上げます。昨年中は龍谷院の事業に対しまして、お忙しい中、環境整備の草刈りや、アジサイ行灯祭りに御奉仕を賜り、成功裡に出来ました事を深く感謝致します。本年も種々の行事が有る事と思いますが、宜しくお願い申し上げます。

昨年の十月二十九日、土浦の市民会館において曹洞宗茨城県宗務所檀信徒大会が開催されまして、約千名位集いました。当院より住職さん、梅花講の皆さん、総代を含めて十三名で参加致しました。大本山総持寺二祖峨山韶碩禅師の六百五十回大遠忌予修法要が行われ、次に檀信徒物故者供養、護持会功労者表彰等が行われ、第二部に梅花流県奉詠大会が開催され、龍谷院より参加されました十名の皆さんも第一教区の方々と共に見事に詠い上げられました。その後全部で十組の御詠歌御和讃が歌われました。午後第三部の記念講演が行われ、講師に「車椅子のアーティスト」佐野有美さん。『私が感謝を語るなら「出合いの素晴らしさ」と「支え合いについて」』と題して、約一時間のすばらしい講演でした。手足の無い不自由な体で左足の指だけで車椅子を自由に動かしながらの話、高校在学中「チアリーディング部」に所属し、卒業後は声優やタレントなどの夢に向い頑張り、親に感謝、出合った人に笑顔と感謝を忘れずに、常に努力する精神力の強さに

感激致しました。

続いて落語家露の新治（つゆのしんじ）「新ちゃんのお笑い人権」の高座がありました。人間は皆平等である。自分の祖先が十代前は何人になりますか。二人の親が四人八人と数えていけば、その子孫は大体同じ祖先になるのではないか。だから皆お互いの人権を大切に、というお話でした。最後にいす坐禅の指導を受けて閉会となりました。

この大会に参加してお互いに同行同修の仲間として仏の道を歩んで行ければと念じています。

新年のご挨拶

総代　石崎　貞夫

新年あけましておめでとうございます。檀信徒の皆様には、希望に満ちた輝かしい新春を迎えられましたことと心よりお慶び申し上げます。

また、日頃は、菩提寺の維持運営につきまして、多大なご支援ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年を振り返ってみますと、各地で様々な災害により、多くの尊い命が犠牲となりました。

被害に遭遇されました方々に心よりお見舞い申し上げます。また、復興再建にご尽力されている方々には一日でも早く明るい日々を取り戻せるようお祈りいたします。

この地におきまして、大きな災害もなく平穏に暮らすことができましたのも、仏天のご加護の賜と深く感謝し、本年も変わらず明るい日々を過ごせるよう、いま一度襟を正し、より一層の信心をと心新たにしているところです。

龍谷院のますますのご繁栄のため、皆様の格別のご厚情ご協力を心よりお願い申し上げます。

結びにあたり、檀信徒ご一同様のますますのご健勝とご多幸を心よりご祈念申し上げまして、新年のご挨拶といたします。

天水桶の寄付金の御礼

昨年の龍谷院だよりに天水桶寄付金の募集をいたしました所、大勢の皆様よりご寄付を頂戴いたしました。厚く御礼申し上げます。機会がありましたら、一度ご覧下さい。

天水桶寄進者芳名一覧（敬称略）

金六万円	加藤　盛一	〃	西田　政子	〃	関　里美
〃	川野邉　博	〃	所　威光	〃	加藤木勝三
金四万円	石崎　貞夫	〃	桐原　務	〃	加藤木信宜
〃	小幡　利克	〃	森木　務	〃	関口　博
〃	皆川　重夫	〃	遠藤　均	〃	野上　宏二
〃	廣木　享一	〃	加藤木壽夫	〃	沼生　君子
〃	杉山三千雄	〃	小林　勝夫	〃	小林　茂
金参万円	杉山　清	〃	平賀　好孝	〃	加藤木一彦
金二万円	髙堀　政昭	〃	加藤　正美	〃	川野邉茂之
〃	稲川　清	〃	平賀　修	〃	片岡誠一郎
〃	仲田　高明	〃	廣木　和久	〃	中崎　勝
〃	桐原　幸子	〃	小林　照雄	〃	小林　昭
〃	所　崇之	〃	五位渕　昭	〃	小林　祐司
〃	小森　偕司	〃	茂垣　裕	〃	平賀　幸男
〃	江幡　正雄	〃	所　恭一	〃	小林　春樹
〃	江幡　武子	〃	片岡　兵吾	〃	廣木　邦昭
〃	皆川　泉	〃	森木　義憲	〃	山崎　孝
〃	小林　文夫	〃	釜野はるみ	〃	君嶋　照光
〃	杉山　希良	〃	角田　武雄	〃	青柳　輝夫
〃	髙堀　なみ	〃	笹島　典子	〃	髙堀　昭己
〃	加藤木昭二	〃	皆川　格	〃	関　博信
〃	小林　勝	〃	島村美佐子	〃	中崎　徳男
〃	加藤木昭博	〃	渡邊　和夫	〃	所　常夫
〃	広木　功	〃	仲田レイ子	平成二十六年六月吉日	
〃	廣木萬之介	〃	小森日出男	當山四十四世	
〃	所　正光	〃	関　昌也	耀月義光代	
〃	宇留野一洋	〃	橋本　茂		

龍谷院の行事

二月三日　恒期　節分会

毎年二月三日に龍谷院では節分会のご祈祷会を行っています。先代住職より受け継がれ今年も大勢の皆様のご参加をいただきました。

五月二十一日　龍谷院檀信徒親睦ゴルフ大会

今年の第八回のゴルフ大会には、十組四十名の参加がありました。年々盛んになり、定着をしてまいりました。日頃の運動不足に、またの参加をお待ちしています。

優勝者　孫根　河崎　功　様
二位　下阿野沢　橋本隆元　様
三位　高萩　大徳順覚　様

寄付者（ゴルフ大会）
一、橋本　茂　様
一、城北工機　関　様
一、野口謙治　様
一、森木　務　様
一、仲田静雄　様
一、加藤木勝三　様
一、松本活道　様
一、小幡利克　様
一、広木和久　様
一、茂垣商店　様
一、聖明園　様
一、石鉄石材　様
一、佐藤元一　様
一、森田自動車　様
一、オケキ仏具店　様
一、花の寺めぐり　様

五月二十八日　梅花流全国大会

島根県出雲市にて開催されました。

六月二十九日・三十日　龍谷院アジサイ行灯祭

第二回アジサイ行灯祭が開催されました。二日間に亘り近隣より大勢の方が楽しんでいただきました。

十月二十九日　曹洞宗茨城県檀信徒大会

平成二十六年は大本山総持寺二祖峨山韶碩禅師の六百五十回忌の遠忌の年にあたります。その予修法要が茨城県土浦市市民会館で執り行われました。

龍谷院より総代さまと梅花講員が参加されました。その様子が寄稿で紹介いたします。

茨城県宗務所檀信徒大会に参加して

桐原　幸子

去る十月二十九日、土浦市民会館にて、曹洞宗茨城県宗務所檀信徒大会が行われました。龍谷院の総代さんと梅花講員の皆様と参加いたしました。開会に続いて、大本山総持寺二祖峨山韶碩禅師六百五十回大遠忌予修法要が執り行なわれ、続いて檀信徒物故者供養がありました。本年行われた梅花流奉詠大会は、教区

ごとで私達は第一教区ですので一番に登壇しました。近年足腰も悪くなり、登壇するのも困難になってまいりましたが、皆様に助けられ、どうにかお唱えすることが無事できました。午後は、記念講演があり、一人目は、車いすのアーティスト佐野有美さんの「私が感謝を語るなら出会いの素晴らしさと支え合いについて」。車いすで生活をしている佐野さんの体験とお話を聞くことができました。二人目は、落語家、露の新治さんのお話では、「新ちゃんのお笑い人権高座」落語家ですので時々笑いを入れ乍らのお話は、とても受け入れやすく、楽しく聞くことができました。最後にいす坐禅の指導がありました。静かに心を無にして坐禅を行いました。

梅花は、普段わすれがちになり、生きていることへ感謝と先祖への供養もかねられる素晴らしいものと私は思っております。

新年あけましておめでとうございます。

檀信徒の皆様方には御家族お揃いで輝かしい新年を迎えられた事と心よりお慶び申し上げます。私ごとですけど、龍谷院の梅花講員として、月二回のお稽古と、お寺の行事に参加しております。お唱えの後、お話したり楽しい時間を過ごさせていただいております。本年も健康に注意して続けてゆきたいと思います。

新しいお仲間が増えることを歓迎いたします。

「良寛さま」を奉詠して

吉田　房枝

新年お目出度とうございます。

「朝な夕なに眺め入る　波間にうかぶ佐渡ヶ島

良寛さまは恋しいの　佐渡は死なれた母の里

しあわせだろうかお母さん

水茎のあとも涙にかすみけり

在りし昔のことをおもえば」

「良寛さま」の二番の歌詞です。お詠えする度、良寛さまの深い慈悲心が伝わってきて、感動します。十月二十九日、総代様方と私達梅花講員で、土浦市民会館で行われた、茨城県宗務所檀信徒大会に参加させて頂きました。いつもながら、厳粛な法要に心打たれ、第二部の、梅花流県奉詠大会で、この「良寛さま」を第一教区の方々と奉詠させて頂きました。顔も名前も知らない方々と心ひとつに、お詠えができる幸せを感謝いたしました。

午後は、佐野有美さん（車いすのアーティスト）の記念講演がありました。生まれつき手足が無いハンディがありながら、明るい笑顔で、前向きに、そのたゆみない努力で生きている話を聞かせて頂きました。短い左足と、その先の三本指で「ありがとう」「笑顔」「ささえあえ」「きずな」と書いて見せて下さいました。その姿に、五体満足である自分は、何一つ不足など言っては申し訳ないとしみじみ思いました。「新ちゃんのお笑い人権高座」の落語、最後はいす坐禅で呼吸を整え、静かに終了。有意義な一日でした。

檀信徒大会

小林　恵子

第一部は、大本山総持寺二祖峨山韶碩禅師六百五十回大遠忌予修法要でした。献湯食、嚫金菓など、厳かにお供えし、代表の方々が焼香いたしました。

第二部は、梅花流県奉詠大

会です。今年は教区ごとの発表で、私達第一教区は、一番多く七つのお寺さんでの合同発表会です。十月二日に内原の安国寺さんで一度、練習したのですが、多勢で合わせるのは大変でした。

午後からは、記念講演で、車いすのアーティスト、佐野有美さんのお話で、「私が感謝を語るなら～出会いの素晴らしさと支え合いについて」でした。有美さんとは、二度目の出会いですが、屈託のない笑顔、張りのある大きな声、又元気を貰いました。

次は人権研修会、落語家、露の新治さんの「新ちゃんのお笑い人権高座」。良く笑いましたが、部落差別や憲法9条に触れ、真面目なお笑いで、色々考えさせられました。

さらにいす坐禅の仕方を教えて頂き、しばらくすると、「濁りなき心の水にすむ月は、波も砕けて光とぞなる、光とぞなる」素晴らしい坐禅御詠歌の独唱に会場が、心一つになりました。実に有意義な一日でした。

良寛さま

廣木　久枝

第三十三回梅花流茨城県奉詠大会が、十月二十九日に開催されるお題目なのです。

私達が毎月二回の梅花を練習し、その様が秋日和の十月二十九日に土浦市民会館で行われました。私達の梅花講では、この「良寛さま」のお題目で奉詠することとなり、練習をしておりました。が、私には、お盆が過ぎお彼岸が過ぎて何かと忙しい時期がありました。けれど練習もいつもなら教本を見てお唱えをすることが出来たのに、この「良寛さま」はそんなに難しい曲ではないのですが、どこか違う所があり、すんなりと覚えることができませんでした。

ある日それがすんなりお唱えすることができ、それこそ一人で喜びました。心もすっきりし、練習することの意味がなぜか解るような気がしたのです。長いことやっている梅花なのに、なぜ、こんなにも私を苦しめ後悔の念にかられたのか…。

そんな訳で大会はしっかりとお唱えすることができました。が、一度に七つの講六十人位の人達が一緒なので、和気藹藹というようなことでした。私達龍谷院講は、「良寛さま」をしっかりお唱えすることができ、ここでもそっと喜びをかみしめることができました。

私達の龍谷院講は、少人数ではありますが、それなりの仲間意識で楽しんでおります。この梅花流奉詠大会と共に茨城県宗務所主催檀信徒大会があり参加してまいりました。

もう北風が吹きはじめ次の年への期待をのせて、私達は、梅花への感心を忘れずに過ごしていきたいと思っております。

曹洞宗梅花講に入って

髙堀　美智子

この度龍谷院梅花講に入講するに当たり、本院方丈様をはじめ、梅花講の皆様には大変お世話になりました。方丈様や梅花の生徒さんから優しく、手を取って教えてくださり、自分は八十五の手習いをするのだと心に決めました。

私の所属する龍谷院梅花講では、行事の前日に本堂の奥まで入り、位牌堂や千手観音様のお掃除を致します。千手観音様を拭き清める時には、格子越しにしかお参りした事がない私にとって、夢にも思えない事でした。思わず手を合わせ、感無量でお参り致しました。

入会後十ヶ月の未熟な私も、大子町での茨城県梅花大会に出席する事ができ、感謝しております。曹洞宗茨城県宗務所檀信徒大会は、土浦市民会館大ホールで開催され、私にとって二度目の県大会参加となりました。

大会会長曹洞宗茨城県宗務所長大山定隆様の立派なご挨拶を聞き、次に立派な方丈様方のお話を聞き、自分はどうして良いかわからない気持ちでいっぱいでした。

私達は、水戸地区の中に入っての発表でした。七十人を超える大きなグループでの発表は初めてで、圧倒されそうでした。『良寛様』の曲が流れてきました。遅れては大変と思い、夢中で周りに合せて声を出し、フサを持ち、鐘を鳴らしました。先生に教えてもらった事が心に浮かび、それを頼りに最後までやり通すことができました。

席に戻ると、龍谷院総代加藤様や川野辺様に、良く出来たとお褒めの言葉を頂き、うれしく思いました。

あらためて、今回参加できたことがうれしく、励みになりました。これからも龍谷院梅花講の皆様や方丈様に助けられながら、頑張って続けていければと思いました。お世話になった皆様、本当に有難うございました。

心豊かな日々を

仲田　昭子

山門をくぐると四季折々の景色に心が安らぎます。ロウ梅の黄色い花ビラとほのかな香り、紅梅の蕾がほころび、柔かい日射しの中、春を運んで来ます。暖かさを増す頃には、櫻花爛漫、小鳥の囀り、枝垂櫻の花に本堂が見え隠れし、額の中にある風景そのものです。花の寺の一番寺である龍谷院は「アジサイ寺」です。毎年お世話人さんの手入れが入り、大きくなりました。杉の木立の中にも雨の滴に打たれ紫に、ピンクに、白にと、一段と色を増します。木々の蔭には「シャガ」の花がそっと静かに白い花を咲かせております。お寺の山がきれいに色づく頃には、天を貫くほどの大イチョウが黄金に輝き、真直ぐな柱となって町道からも見えます。山が茶色に変わる頃、イチョウも葉を落し、千手観音様の周りは黄一色の絨毯を敷きつめ、一日一日と冬が近づいてまいります。

御詠歌の練習は月二回ですが、お唱えと、鐘、鈴の音が清く澄んだお寺に響き、心豊かな時を過ごしました。

御詠歌との縁がなければ、お寺さんに来る事もありませんでしたが、お陰さまでお寺の行事にも参加させて頂き有難く思います。

又、すばらしい友との出会いもあり、境内の木々の息づきを心身で受けとめる、心のゆとりを得たように思います。

寺山の上に、細い月と、輝く一つの星を見上げ今日も一日心おだやかに過ごせた事に感謝をし、又明日も良き日でありますようにと思います。

感謝録

灯明料

一、加藤　盛一　様
一、川野辺　博　様
一、石崎　貞夫　様
一、沼生　君子　様
一、高橋　せつ　様

新米の奉納（平成二十六年）

一、高土　洋一　様
一、加藤　盛一　様
一、小林　昭　様
一、広木　功　様
一、川野辺　博　様
一、小幡　利克　様

手桶

寄付者　沼生　君子　様

本年度の行事

五百回大遠忌法要

秀峰宗岱大和尚の像

平成二十七年は龍谷院を開山しました秀峰宗岱大和尚が遷化して五〇〇回忌という節目の年となりました。開創が長録三年（１４５９年）室町時代中期にあたる。爾来約五五〇年の歳月が経ちましたが龍谷院が廃寺にならず現在に至ったのも歴代の住職の努力と檀信徒の支援であろうと推測するところです。当山の住職で四四代目となります。たまたま、この法縁に出逢ったのも良きご縁と考えるしだいです。歴代の住職の思いはやはり龍谷院が何時までの絶えることなく継続することではないかと思うのです。

龍谷院は神奈川県にあります大雄山　最乗寺とは深いかかわりがあり秀峰宗岱大和尚も龍谷院より大雄山最乗寺の住職として第五三世の住職になっています。昔は輪番住職制があって順番に各縁寺院を回りながら住職を務めたとされています。

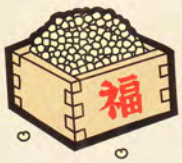
そのような関係により、大遠忌法要の導師は大雄山最乗寺住職（大本山総持寺副貫主）をお願いし、恩厳なる法要をもって感謝の意を表したいと考える次第です。

檀信徒の皆様に、ご理解を頂きながら無事に法要が円成出来ますよう願うものであります。

大雄山最乗寺の都合上、来る一〇月二十四日（土）を法要の日程とさせていただきました。詳しくは総代・世話人会を通じ檀信徒の皆様にご案内させていただきます。宜しくお願い申し上げます。

豆まき

集まれ！



平成27年節分会

2月3日（火）
午後4時～
子供たちの
豆まき式を行います。
ふるってご参加ください。

尚、豆まき式は午後2時、3時、4時、5時の4回行います。

第9回龍谷院檀信徒交流ゴルフ大会　参加者募集

平成27年4月13日（月）友引
水戸レイクスカントリークラブ
（予定ですので変更になる場合もあります）
参加費　3,000円

『編集後記』

平成二十六年は、都合により、寺報は一回の発行となりました。今回は平成二十六年十月二十九日実施の「曹洞宗茨城県宗務所檀信徒大会」への参加とその内容の報告と、梅花講員の活動の特集となりました。

次に方丈様待望の天水桶も檀信徒の方々の浄財もあり、設置できましたこと、ご同慶のいたりです。

厳寒の折、皆様はご自愛の程を。

杉山三千雄
稲川　清

第3回アジサイ行灯祭り（予定）

平成27年6月27日（土）～28日（日）

（主催　龍谷院行灯実行委員会
後援　城里町観光協会）

※行灯祭り申込みは、5月30日までに申込み下さい。